

令和五年お盆法話

運について

正信寺 石川英和

令和五年七月九日 正信寺 お盆 法話

運について

石川英和

【はじめに】

本日もご多忙のところ、お参りいただきましてありがとうございます。
今日は「運」についてお話しさせていただこうと思います。

【運がある】

今年ワールドベースボールクラシックが開催され、日本代表が優勝しました。
大谷翔平が活躍して、MVPを獲得しました。投手として二勝一セーブ、打者としても打率四割三分五厘で、一本塁打八打点、緊張のある決戦で結果を残せるのは、「持っている」という表現をされていました。これは、「運」が良いといっても良いのではないかと思います。

大谷選手は、花巻東高校出身で、時速百六十キロの速球を投げたというマスコミ報道で一躍有名になりましたが、実は高校野球で甲子園に出場していません。記憶されている方も多いと思いますが、夏の高校野球岩手県の決勝で、大谷選手が投げれば、甲子園に行けたかもしれない状況でした。しかし、佐々木監督が、それまで多投していた大谷選手の故障を心配して、決勝戦に出場させませんでした。この方針に対して当時は賛否両論でした。

今、大リーグのブルージェイズに所属する菊池雄星選手も花巻東高校を卒業

しています。同じ佐々木監督のもと甲子園で活躍しています。

大谷選手は、甲子園に行く実力はあったと思いますが、行けませんでした。この時は、運がなかったと言えるのかもしれませんが。

「運」という言葉は、岩波仏教辞典を調べても、記載がありません。一般的には、運(うん)とは、その人の意思や努力ではどうしようもない巡り合わせを指すようです。

つまり、その結果になったのは、偶然そうなったという意味合いではないかと思えます。英語では、「luck」と訳されます。運が良い(幸運・好運)とは到底実現しそうなないことを、偶然実現させてしまうことなどを指します。運が悪い(不運・悲運)とは、楽しみにしていた旅行の当日に、発病してしまうことなどを指します。占いや、神社・寺院のおみくじは、この運を予言する力があるとされます。

「luck」には、勝負のツキに当たる意味もあるようです。別れ際に Good luck! というと、今日はよいことがあるようにという意味になります。

「運命」になると、英語では、fortune ということばと fate という言葉に訳されます。

fortune は、人間の意志をこえて、人間に幸福や不幸を与える力のことを意味します。あるいは、そうした力によってやってくる幸福や不幸、その巡り合わせのことを意味します。どちらかという運に近い・富や成功など良い意味が多いように思います。

fortune は、人生は天の命によって定められているとする思想に基づいて考えられている、人の意思をこえて身の上に起きる禍福という意味です。

さらに the Fates と定冠詞をつけるとギリシャ神話の人間の誕生・生涯・死

を支配する運命の三女神という宗教的な意味があります。

つまり、「運」は偶然起きることを意味し、「運命」は人間を超えた力が働いて身の上にかきまわること指すようです。

私は、「運」は日常の身の回りに起きて、運が自分の力を超えて、生きる上で分岐点となる事象になったとき、それは「運命」と呼ばれるのではないかと思います。

では、仏教ではなぜ「運」や「運命」という考え方がないのでしょうか。

【因縁】

初期仏教では、偶然で物事が起こることはないと考えられています。すなわち、生起するすべてのことには原因があるという思想です。

因縁や縁起という言葉も使われます。初期仏教では、結果を生じる直接的な源である「因」に対して、間接的な原因で、原因を助成して結果を生じさせる条件や事情のことを「縁」と言います。初期経典にある、十二因縁、十二縁起は、苦の根本的原因を問うものです。十二因縁は鳩摩羅什の訳で、十二縁起は玄奘の訳で同じものと考えられています。

十二因縁について簡単に説明します。

- ▼ 無明(むみやう) - 煩惱の根本が無明。明るくないこと。迷いの中にあること。
- ▼ 行(ぎやう) - 生活作用、潜在的形成力、志向作用。物事がそのようになる力のこと(業)。
- ▼ 識(しき) - 識別作用。好き嫌い、選別、差別の元のこと。

- ▼ 名色(みょうしき) - 物質現象(肉体)と精神現象(心)。物質的現象世界。名称と形態。実際の形と、その名前です。

- ▼ 六処(ろくじよ) - 六つの感受機能、感覚器官。眼耳鼻舌身意の六感官。六入(ろくにゆう)とも言いいます。

- ▼ 触(そく) - 六つの感覚器官に、それぞれの感受対象が触れること。外界との接触のこと。

- ▼ 受(じゆ) - 感受作用。六処、触による感受のこと。

- ▼ 愛(あい) - 渴愛、妄執のこと。

- ▼ 取(しゆ) - 執着のこと。

- ▼ 有(う) - 存在。生存のこと。

- ▼ 生(しやう) - 生まれること。

- ▼ 老死(ろうじ) - 老いと死のこと。

十二因縁は、無明、行、識、名色、六処、触、受、愛、取、有、生、老死の十二個で、無明によって行が生じるといふ関係性を観察し、行(人間の生活作用)が生じて生や老死という苦が成立すると知ることを順観と言います。また、無明が消滅すれば行も消滅するといふ観察を逆観と言います。

順観と逆観の両方を行って、人間のありように関する因果の道理を明らかにした結果、因果の道理に対する無知が苦悩の原因であったと悟るといふ考え方が十二因縁と呼ばれます。その際には苦悩が消滅し、根源の無明が消滅しているため輪廻もなくなるとされます。

十二因縁を簡単にまとめると、苦には、無明という原因があり、無明という原因を除くことで苦を除くことができると考えています。

私たちは、日常生活で偶然失敗して、悩み苦しむと思っています。例えば、皆さんは、たまたま、財布を無くして、悩み苦しむこともあると思います。ちょっと納得がいかなかったかもしれませんが、初期仏教では無明が原因で、財布を

無くした事象に、苦しむと考えるのです。運が悪かったとは言わないのです。

天親菩薩は浄土真宗の七高僧の一人です。部派仏教の一派である説一切有部で出家し、後に経量部(きょうりょうぶ)に転向しますが、学才がすぐれていたので部派仏教のすべての教えに詳しく、名声をあげたといえます。部派仏教とは、インドを中心にお釈迦様の死後百年から数百年の間に分裂成立した二十の部派のことです。これはアビダルマ仏教とも呼ばれ、上座部(小乗)仏教系に当たります。そして著わされたのが『阿毘達磨俱舍論(あひだつまくしゃろん)』、略して『俱舍論』です。宇宙観から身口意の三業や煩惱など幅広く説明しています。

私たちが認識する、存在・事物の現象は、様々なダルマ(法体)が離合集散して、流動的に構成されるといわれます。そして、過去、現在、未来に刹那に生じ、刹那に滅します。ダルマは縁起によって生起し、存在し続けますが、同じものではありません。このことを、三世実有 法体恒有と言います。

様々なダルマを原因として様々なダルマの結果が生じるという因果の道筋を整理して、迷いから悟りへの転換の道筋を示すことが俱舍論の目的というように私は理解しています。今の自分のありかた(有漏)から自分のあるべき姿(無漏)に昇華させることを示していくことを世親が行ったかったのではないかと考えています。「漏」とは心の汚れを表す言葉で、仏教では広い意味で「煩惱」を指します。よって、煩惱が無いことを「無漏(むろ)」、煩惱に迷うことを「有漏(うろ)」と言います。

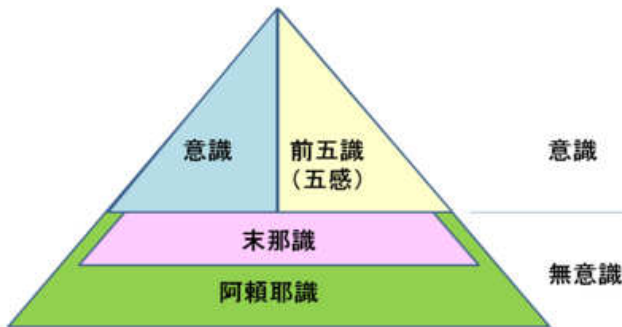
段々回りくどい説明になりましたが、俱舍論では、原因と結果によって人間の心にも影響するダルマは存在し続け、運という偶然で、ダルマが発生するものではないということです。

大谷選手の例でいうと、WBCでMVPになることは、俱舍論では偶然に発生することではなく、それまでの肉体トレーニングやメンタル面の強化というダルマで生じた結果と考えるのです。

【大乘仏教の因果】

竜樹の「中論」などを基本的な典籍とする大乘仏教の中観学派は、ダルマ自体を否定します。有と無との区別は相対的であり、真実は空であり、中道であるとする空観に立ちます。存在に特定、特有の性質を持たないと考えます。物や心の動きに固有の性質がなく(無自性)、空であると考えます。

中観学派に対し世親の唱えた瑜伽行唯識学派、唯識仏教は、個人、個人にとつてのあらゆる諸存在が、唯(ただ)、八種類の識(八識)によって成り立っているという大乘仏教の見解の一つです。八種類の識とは、五種の感覚(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)、意識、二層の無意識を指します。



五種の感覚は、眼識(げんしき)、視覚(しき)、聴覚(ちんかく)、鼻識(びしき)、嗅覚(きゅうかく)(ぜつしき)、味覚(みかく)、身識(しんしき)、触覚(じくかく)と呼ばれ、これは総称して「前五識」と呼びます。その次に意識、つまり自覚的意識があります。六番目なので「第六意識」と呼ぶことがありますが同じ意味です。また、前五識と意識を合わせて六識または現行(げんぎょう)といいます。ここまでは、人間が感じることができる「意識」に分類されます。

その下に末那識(まなしき)と呼ばれる潜在意識が想定されていて、寝てもさめても自分に執着し続ける心であるといわれます。熟睡中は意識の作用は止まりますが、その間も末那識は活動し、自己に執着すると考えられます。

さらにその下に阿頼耶識(あらいやしき)という根本の識があり、この識が前五識・意識・末那識を生み出し、さらに身体を生み出し、他の識と相互作用して我々が「世界」であると思っているものも生み出していると考えられています。

夢を見るのは末那識や阿頼耶識のためと考えられています。現在では夢物語と言われていますが、唯識の世界では、真実のお告げ、または、神仏のお告げが「夢告」に現れると考えられていました。

八識の存在は主観的な存在であり客観的存在ではありません。つまり、実体がないのです。それら諸存在は無常であり、時には生滅を繰り返して最終的に過去に消えてしまおうと考えられています。

般若心経は、浄土真宗では称えることがありませんが、その一説に、「色即是空 空即是色」とあります。即ち、それら諸存在(色)は「空」であり、実体のないものである(色即是空)と説きます。

つまり、中観学派でも、瑜伽行唯識唯識論でも、運がよかったとか、運が悪かったこと自体が空または主観的な出来事で、最終的に過去のものとして消えてしまうということです。

大谷選手のことといえば、ベールブラスを超えたとか、百年に一人の才能と言われることも、唯識論では、主観で生じたことで、実体がないと考えるのです。そう考えることは、なんか興ざめで、ちょっと寂しい気持ちもあります。

【マンダラチャート】

アメリカ大リーグで今も活躍する菊池雄星選手や大谷翔平選手を輩出した花巻東高校の野球部の佐々木監督は、選手に目的を達成するための曼荼羅(マンダラチャート)を毎年書かせるそうです。

日本の密教の曼荼羅図は、悟りを得るために、根本經典を意識して、大日如来を中心とした仏の世界をイメージして金剛界と胎藏界の両界曼荼羅を作ったといわれます。種類は数百種類あるといわれています。



そのほか、別尊曼荼羅は、大日如来以外の尊像が中心になった曼荼羅で、国家鎮護、病氣平癒などを目的としています。

佐々木監督は、選手が目的を達成するために、最も重要な具体的なポイントを実現させる事象を八種類

上げるマンガラチャートを選択に作成させます。

経済雑誌のダイヤモンドに掲載された、大谷選手のマンガラチャートを紹介します。原典は、「仕事も人生もうまくいく!」[図解]九マス思考 マンダラチャート」で、ダイヤモンドはこれを紹介したものです。

次に示す曼荼羅チャートは、高校一年生の時に大谷選手が野球をする目標として、ドラフト一番で、プロ野球チーム八球団に指名されるために、どうするかということが書かれています。

ドラフト一番でプロ野球球団八チームから指名されるためには、

- ▼ 体づくり
- ▼ コントロール
- ▼ キレ
- ▼ スピード 160km
- ▼ 変化球
- ▼ 運
- ▼ 人間性
- ▼ メンタル

を達成する必要があると考えていたようです。そして、それぞれを達成するために、マス目の外側のことを実施するというように細分化しています。

野球選手として、体づくりをしたり、スピードボールを投げたり、変化球を完成させたりすれば良いことはだれでも思いつきます。しかし、運がよくなければ、ドラフトで指名されないと高校一年生で考えていたことには驚きませんでした。

大谷翔平(高1当時) が書いたオープンウィンドウ64

体のケア	サプリメントをのむ	FSQ90kg	インステップ改善	体幹強化	軸をぶらさない	角度をつける	上からボールを叩く	リストの強化
柔軟性	体づくり	RSQ130kg	リリースポイントの安定	コントロール	不安をなくす	力まない	キレ	下半身主導
スタミナ	可動域	食事夜7杯朝3杯	下肢の強化	体を開かない	メンタルコントロールをする	ボール前でリリース	回転数アップ	可動域
はっきりとした目標、目的を持つ	一喜一憂しない	頭は冷静に心は熱く	体づくり	コントロール	キレ	軸でまわる	下肢の強化	体重増加
ピンチに強い	メンタル	曇田気に流されない	メンタル	ドラ1 8球団	スピード 160km	体幹強化	スピード 160km	肩周りの強化
波をつくらない	勝利への執念	仲間を思いやる心	人間性	運	変化球	可動域	ライナーキャッチボール	ピッチングを増やす
感性	愛される人間	計画性	あいさつ	ゴミ拾い	部屋そうじ	カウントボールを増やす	フォーク完成	スライダのキレ
思いやり	人間性	感謝	道具を大切に扱う	運	審判さんへの態度	遅く落差のあるカーブ	変化球	左打者への決め球
礼儀	信頼される人間	継続力	プラス思考	応援される人間になる	本を読む	ストレートと同じフォームで投げる	ストライクからボールに投げるコントロール	奥行きをイメージ

■：第一の目標 ■：達成に必要なこと×8 (3年間で16枚書いた中の、最初の1枚)
 ■：各々の■に必要なこと×8

大谷選手が、大リーグのグラウンドでゴミ拾いをしていくことはニュースになりましたが、実は高校一年生の時から実践していたことのようにです。

同じ高校の先輩の菊池雄星選手も、大リーグで活躍していますが、二人ともグラウンドに限らずゴミ拾いは実践していると聞きます。

このほかにも、部屋掃除をするということが書かれていますが、WBCで日本チームのロッカーがきれいだったということは、各国マスコミでも取り上げら

れています。

ここまで書くと、大谷選手は運を味方につけて結果を出すことに対して、原因を作ることを実施しているように見えます。良い「運」を偶然ではなく、俱舎論的な因果関係でとらえているように感じました。

【親鸞聖人の運と運命】

今年、親鸞聖人生誕八百五十年、浄土真宗開宗八百年の節目の年です。京都国立博物館では、親鸞展が開催されました。私は、趣味で東海道五十三次の旧道を数日ずつ歩いてきました。二年ほど前に日本橋を出発し、今年のゴールデンウィークに京都の三条大橋にたどり着きました。そのあと、この親鸞展を鑑賞しました。

親鸞聖人が、承元の法難で越後に流された後、笠間の地で布教して、教行信証を完成させるために京都に帰ったのは、六十歳の時で、まさに、私の年齢の時に、箱根を超えて京都に帰ったのです。私が、この年で京都まで歩けたこと、親鸞聖人が帰京した年と同じくらいの年であったことということに、幸運を感じます。運というより、阿弥陀様のお計らいなのではないかとありがたく思えます。

同じように、親鸞聖人の生涯も、「運」と「運命」と呼べる出来事がいくつもあるように思います。浄土真宗門徒としては、「運」と「運命」は、偶然起こるものではなく、阿弥陀様による他力のお計らい、お導きと読み替えていただきたいと思います。

まず、親鸞聖人は比叡山で修行をされても、煩惱を断ち切れず真実の悟り

が得られないと感じた時に、六角堂に行ったことです。この時、親鸞聖人は六角堂に行くしかないと考えたかもしれませんが、六角堂以外に行く選択肢もあつたのではないかと思います。ですから、これは、何かに導かれた「運命」のかなと私は思います。

六角堂は、聖徳太子が開祖と言われていて、本尊の如意輪観音は救世観音とも呼ばれ、夢告を与えてくれると信じられていました。親鸞聖人は百日の参籠を行います。今でこそ神社に参拝する、御百度参りという言葉がありますが、当時の百日の参籠は、ほかの修行に比べて長期間だったと聞きます。そして、九十五日目に夢告を得ます。夢を見られたこと、これも、「運」ではないかと思えます。

そして、法然上人のもとに行き、吉水の草庵で専修念仏を学びました。法然上人の下では親鸞聖人のほかに多くの弟子が学んでいましたが、親鸞聖人は四年後に「選択本願念仏集」の書写を許され、法然上人の肖像画の作成も許されました。これを許された弟子は多くなかったため、これも「運」が良かったのだと思います。仮に、ほかの弟子より専修念仏の理解が進んでいたとしても、法然上人や吉水の他の弟子たちに嫌われていたら、こうはならなかったと思えます。

承元の法難で越後に流罪になったのも、親鸞聖人としては悪い「運」でしたが、関東での布教や教行信証の著作を著すためには、必要な「運」だったようにも思えます。流罪にならなければ、浄土真宗は生まれていなかったと考えることができると思います。これは、親鸞聖人の力を超えた「運命」だったと言えるのではないかと思います。

「運命」を別の側面で捉えると、人生の中で起こる様々な「運」をありのままに、前向きに受け入れることではないかと思えます。受け入れた「運」が、結

果的に自分の力を超えて自分を飛躍させてくれるのだと思います。飛躍したことを感じれば、それが、自力を超えた他力のおかげと感じられるようになります。その時は自然に、報恩感謝の念仏が出るように思います。

きました。

本日は、ご清聴いただきありがとうございます。ありがとうございました。

【おわりに】

今日はお話しきれなかったこともあります。また、説明が拙かったこともあり恐縮です。

しかし、このように「良運」や「悪運」に直面して、親鸞聖人の力を超えた「運命」に導かれた聖人の一生を思うと、親鸞聖人が一心に信じた阿弥陀様の力を感じるような気がします。

最後に、今日お話ししたことをまとめたいと思います。

私たちが日ごろ感じている「運」は初期仏教では、偶然ではなく、すべて原因があつて起きていると考えます。

大乘仏教の中観学派も瑜伽行唯識唯識論学派でも、「運」というものは、実体がない「空」であると考えます。運が悪くても、それに執着する必要はないと考えます。

そして親鸞聖人の生きざまから学べる事は、人生の中で起こる様々な出来事を前向きに受け入れることではないかと思えます。その良運であれ、悪運であれ、「運」をありのままに受け入れた結果、将来、自分の力を超えた良い結果が起こることがあります。その時、他力を感じ、阿弥陀様のお導きを実感するようになるのではないかと思います。

蛇足ですが、大谷選手のマンガラチャートの「運」の実現の一マスに、「念仏を称える」というのを入れるのはちよつと違います。「運」を良くするために念仏するのは、自力の念仏になってしまいます。念のため付け加えさせていた

浄土真宗

安養山 正信寺